

たんちよう

JAくしろ丹頂
広報誌

vol.124
2018.2

くしろ丹頂



平成29年度 JAくしろ丹頂 役員道外視察研修

福島県郡山市 酪王乳業株式会社

CONTENTS

- 第66回 全道JA青年部大会
JA青年部鶴居支部「ふるさと給食出前授業」—— 1
- 釧路地区JA女性部研修会
第30回「かあさんDAY」
JA人事管理制度研修会 —— 2
- 平成29年度 役員道外視察研修報告 —— 3～6
- 平成29年度 鶴居村海外酪農視察報告 —— 7～8
- 普及センターだより —— 9
- 准組合員について学ぶ —— 10
- JAグループ通信 —— 11
- JA北海道厚生連からのお知らせ —— 12
- 理事会報告/生乳生産実績/退職者 —— 13



人事管理制度研修会

第66回 全道JA青年部大会

大会テーマ『Exciting Innovation ～未来への改革～』
北海道に夢のある種を蒔こう



青年の主張で優秀賞！大坂隼人さん

12月7～8日、北海道農協青年部協議会は、札幌市内のホテルで第66回全道JA青年部大会を開催し、当JAから對木賢雅部長他7名が出席しました。

JA青年の主張発表大会では、音白支部の大坂隼人さんが釧路地区を代表し「私の農場・酪農の将来について」と題

して発表し、みごと優秀賞を受賞しました。

また基調講演や分科会、農村ホームステイ事例発表、アイムレスリング大会等が行なわれ、全道各地の盟友と交流を深めました。

本大会では「農協改革に対する特別決議」が採択されました。



大会の様子

「ふるさと給食出前授業」で「食育教育」

～青年部鶴居支部～



増田さん(左)と菱沼さん(右)がわかりやすく説明

また乳牛の模型を使った搾乳体験などを行ない、生徒達は「酪農」について多くを学びました。

く解説しました。

12月15日、鶴居小学校で、よつ葉乳業(株)根釧工場主催による「ふるさと給食出前授業」が行なわれました。

この授業は社会学習の一環で、三年生を対象に「根釧牛乳」の消費拡大と地産地消の意識を根付かせる「食育教育」を目的に毎年実施しております。

当JA青年部鶴居支部の増田一真さん、菱沼恭平さん、よつ葉の担当者が講師となり、「くしろの酪農」について「牧場のしごと・牛乳のできるまで」等をわかりやすく



模擬搾乳体験を実施



釧路地区JA女性部研修会

～女性組織のより一層の活性化を目指して～



エコたわし作りに挑戦

12月5～6日、阿寒で管内の女性部員・事務局計65名(当JA女性部員20名)が参加し、平成29年度 釧路地区JA女性部研修会が開催されました。1日目の研修では、「女性農業者のJA運営参画に向けた地区女性協の取組み報告」や「JA浜中町女性部全戸加入経過報告」、「家の光記事活用体験発表」等、2日目は、「エコたわし作り」等を行ない参加者の皆さんは研修を通して交流を深めました。

第30回「かあさんDAY」開催

～部員同士の交流を深める～



ニュージーランド視察報告会

12月8日、本所で第30回「かあさんDAY」が開催されました。部員・関係者33名が参加し、ホクレン釧路支所の担当者からJA個別宅配事業ジョイライフ商品の説明を受けた後、試食会を実施しました。研修報告では、11月に実施された「鶴居村海外酪農視察」へ参加した斉藤紀子さん、菱沼亜実さん、長尾朋子さんより視察内容が報告され情報を共有しました。

JA人事管理制度研修会



12月18日、本所で、本・支所の課長職及び本年度新採用職員・正職員登用者を対象とした人事管理制度研修会が行なわれました。JA中央会根釧支所山本次長及び同会総合コンサル課山崎主幹を講師に招き、課長職を対象に考課者訓練(考課実務)等を、新採用職員・正職員登用者を対象に人事考課の基礎知識と実務上の留意点等を学び理解を深めました。

平成29年度

JAくしろ丹頂 役員道外視察研修報告 ①

平成29年11月21～24日の日程で実施した福島県・栃木県への役員道外視察研修を2回に分けて報告します。

◆11月22日(水)

【視察先1】酪王乳業株式会社
(福島県郡山市)

「酪王」の名前の由来は、1975年に北海道から九州まで、21,569通の全国からの公募の中から「酪農の王様」と書いて「酪王」のブランド名が決定した。牛乳やカフェオレ以外にも、ヨーグルトなど様々な乳製品を作っており、酪王牛乳や主な乳製品は、本社工場で製造している。

●会社概要

福島県酪農協が100%出資の株式会社で、10年前の2



研修風景

007年10月に、福島県酪農協から分離新設立された。

工場設備は、敷地面積19,530㎡、建物面積3,840㎡、殺菌機5台、充填機10台、親元の福島県酪農協は、1994年3月に12組合の合併により広域専門農協として発足した。1997年に福島県酪連の権利義務を承継し、2005年には県内14酪農専門農協の統合が完了した。現在、工場周辺は住宅地化しており、1975年(昭和50年)12月操業開始時には、周辺は田んぼであった。元の所有者は、県酪連傘下の県中央酪農協でその後買収した。当時は、三角形のテトラパックの牛乳製品を作っていた。

酪農家戸数は186戸、飼養頭数7,471頭、生産乳量46,806トン、復興牧場にはミネロファームなどがある。平成28年度の実績は、売上高59億3,560万円、震災後からようやく60億円近くまで回復した。処理乳量1

6,833トン、乳業工場運営のためにHACCP、FSSC22000、エコステージェSS-001の外部認証を取得した。社会貢献活動にも取り組んでおり、工場周辺のゴミ拾いは毎週続けている。また、年に1回構内を開放し、ご愛飲の皆様には感謝を込めて酪農祭りのイベントを開催している。

●乳製品の製造工程

工場には、福島県内の牧場から毎日搾りたての製品が、ミニミルクタンクローリーによって運ばれて来る。



ミニミルクタンクローリー車



製品は計量後、様々な検査（検査室は別棟）が実施される。検査に合格した製品は、クライファイヤー装置を通り強力な遠心力で、目に見えない不純物を取り除かれる。不純物を取り除いた製品は、大きなサイロタンクに移され、5℃以下に冷やされ、鮮度を保ちながら貯乳される。

次に牛乳の成分が一定になる様に、オモゲライザーの機械で乳脂肪分を細かく砕く。生乳に強い圧力を掛けると、乳脂肪分が細くなり一定の大きさになる。脂肪分が均一となり、滑らかな味になる。次に加熱殺菌で、120℃で2秒間生乳を加熱する超瞬間加熱棒を用いて、細菌を死滅させ安心して飲める牛乳にする。殺菌した牛乳を紙パックへ充填する。クリニング器のほぼ無菌に近い装置の中で行われる。ベルトコンベアーの上を流れながら充填・パックシールを初め、金属探知機やウエイトチェック、日付のカ

メラチェックなどが完全自動化で行われ、この間は全く人の手に触れることが無く工程が進む。

その後、牛乳の輸送用ケースに詰められ、冷蔵倉庫に運



生協用のパック



市販用のパック

ばれて保管される。牛乳瓶への充填ラインは、洗浄、殺菌された瓶に、汚れや傷がないかをカメラでチェックし、充填後は直ちにキャップで密閉され、品質保持期限を印字し大型ラップをして完成となる。さらに、人の目でも厳重にチェックする。自動でケースに箱詰めされ、ロボットがケースを積み上げて整理する。

乳製品は生物である。その為、衛生的なオートメーション装置を使うことで、安全性の高い製品が生み出される。ただ、それら全ては人が管理しており、あらゆる工程が正確でスムーズに運ぶ様、常にチェックの目を光らせている。酪王乳業では、安全安心な乳製品づくりを通して、皆さんの健康と笑顔の毎日を応援している。

●2011.3.11 東日本大震災 M9.0

工場の屋根の下を水道管が通っているが水道管が落下し

た。また、水槽の屋根が破損した程度で大きな損傷はなかった。1週間で工場の復旧が出来た。ローリーの軽油が不足していたが、農家が生乳を廃棄している。早期集荷が使命なので工場を再開させた。

しかし、放射性物質の問題で、再開した夜に出荷停止の命令が下された。乳製品と集荷した生乳を全て廃棄処理した。福島産の生乳を使用出来るまで、1か月がかかった。その間、工場を止める訳にはいかないので、岩手県酪からの支援で45トンを受け入れた。まずは、1リットルパックから販売を開始したが、関東方面の宅配の顧客は他社の牛乳へ移った。地元の顧客は何とかあったが、関東方面の顧客は戻っては来なかった。

震災前147あったアイテムが、震災の半年後には72アイテムに半減した。ホームページで積極的にPR活動を行い、その結果、SNSでの

応援があった。誰かが「#福島酪王カフェオレ会」。福島酪王カフェオレ会の被っているいわれのない風評被害を「酪王カフェオレの美味しさ」で吹き消して行くTwitterの会を立ち上げ、呟きをアップしていただいたのは非常に心強かった。この効果もあり、新規のお客様の購入も伴って、2013、2015年には、秋葉原で「酪王カフェオレファンの集い」を開催、2016、2017年には日本橋で「酪王カフェオレ in MIDETTE」を開催し、どちらも大盛況でした。

震災前の売上は61億円で、震災後は45億円まで落ち込み4年間40億台が続き、大変苦労した。今年は順調で62億円程を見込んでいる。売上げの品種別では、1/3が牛乳で2割が乳飲料、酪王カフェオレには牛乳が75%入っており、他社との差別化で消費拡大を図っている。販売先では、量販店（スーパー、コンビニ

等）に1/3を供給している。大震災後、酪王カフェオレの売上げが順調に推移しており、牛乳も徐々に回復傾向にあるので、これからも頑張っ

て参りたい。

【視察先2】 ミネロファーム（NPO法人「FARMnet」が運営する牧場）（福島県福島市）

● ミネロファームの設立の背景（2012年1月23日設立）

東日本大震災並びに原発事故により、多数の酪農家が被災し乳牛1,600頭が減少するなど、生産基盤が大打撃



施設の説明風景

を受け生産乳量は震災前の7割までになった。被災地から離れた福島市において、補修によって利用可能な牧場をNPO法人FARMnetが借り受け、施設を改修して復興牧場を建設し被災酪農家を雇用して、牧場経営再開と県内の酪農の復興に向けた支援を行う。ミネロファームは、被災酪農家の雇用創出と経営再開への精神的な支え、被災酪農家同士のコミュニティの形成の場と経営再開を進め、生産乳生産基盤の回復と福島県酪農の復興を目指した。ダノンジャパン(株)が窓口となり、グループ会社の「ダノンエコシステムファンド」が支援先となった。

ミネロファーム設立にあたり支援の受け皿として、NPO法人「福島農業復興ネットワーク」(通称名FARMnet)を設立した。NPO法人を選じた目的は、単なる牧場経営のみならず社会的課題や地域課題にも積極的に取

り組む。福島県で暮らす人々に対して、農業を通じて生涯安全安心な生活が送れるよう支援する事業を行い、活力ある地域社会の実現に寄与することを目的とした。

活動方針は、1. 災害による酪農者救援、支援事業 2. 農産物放射性物質測定事業 3. 環境保全事業 4. 堆肥リサイクル有機農業連携事業 5. 子供のための酪農体験事業 6. 新規就農者、学生、社会人のための酪農学習事業 7. 地域再生復興事業 8. 農業の経営及び農産物の生産と販売事業 以上、8点の中でも今のメインは4、5、6である。

現在、ミネロファームは被災者による共同型経営で、4名の正職員と2名のパート職員がおり、実被災者は場長の紺野氏のみで、他は離農者や後継者等であくまでも経営母体はNPO法人である。本施設には、宿泊設備があり10名が宿泊出来るので、企業研修



の場として、県酪農協職員、酪王乳業の新人職員を受け入れている。ミネロファームの「ミネロ」の意味は、この住所が松川町水原字峰路で、峰路（みねみち）を副理事長がミネロと読み間違え功を奏したことが由来である。

地震の影響は全く無かった。ライフラインが止まることは無く、搾乳も通常通り出来た。大変だったのは原発事故で、翌日の朝6時に避難命令が出て牛の管理世話も一切出来ず避難した。酪農家の東



事務所兼宿泊施設

日本大震災の本当の被害は、原発事故である。

ミネロファームには、「5つの事業目標」を掲げている。

1. 集約型酪農経営モデル
 2. 被災酪農家の雇用創出
 3. 福島県酪農の復興と生産基盤を確保
 4. 酪農の多面的機能を発揮
 5. 食料生産地域再生のための先端技術展開事業の5つである。その中でも5.では、復興庁と農水省との共同での復興大プロジェクトで、大学や国の専門機関と協力し、実証研究を進めている。太陽光発電による牛舎内のプレートクーラー、ヒートポンプでお湯を貯める、ロータリー式の堆肥舎、クレーン式の堆肥舎、乳房炎の防除等の研究で、現在はデータ収集の作業に取り組んでいる。
- 皆さんの堆肥舎ではプロワ―は堆肥に空気を入れるが、ここでは堆肥から空気を抜くために、プロワ―を使用している。それは堆肥の熱を



処理施設

利用して、牛の飲み水である地下水の温度と交換、地下水を温めて利用している。牛が飲む水の適正温度の数値データを収集している。クレーン式の堆肥舎は、一升が間口6m、奥行き6m、高さ2mで7カ所に移動させながら温度調節をしている。また、2ヶ月程度で製品にして販売している。

全ての機械の電気の供給源は、太陽光である。今では、太陽光の発電時間は朝の6時から夕方5時位、堆肥の製



牛舎内

造は9時から5時までで、収支はさほど上がらないとの見方である。施設等の概況は、牛舎1棟（フリーバーン54頭×2、フリーストール60頭×2）、パーラー（10頭Wパラレル）、ホスピタルペン1棟、堆肥置場3カ所、堆肥処理施設1カ所。飼養頭数140頭、育成頭数41頭（ほぼ北海道に預託）、出荷乳量2,699kg/日、平均乳量23.7kgである。

〈報告者 金融共済部長 石動 稔〉

平成29年度 鶴居村 海外酪農視察 報告

畜産生産部 販売課長 位 下 光 広



平成29年11月11～17日の日程で、当JA職員1名（位下・随行者）、鶴居村で酪農に携わっている女性6名、添乗員1名の総勢8名によりニュージーランド北島へ視察研修に参加して参りましたので報告致します。

●11月13日 農場視察①

○Desley & Steve
a Coughan FARM

ハミルトン市郊外タウピリ地区にて経営する中規模農場で、従業員を1名雇用しています。自宅を丘の頂上に構え、周囲を360度見渡すことができ、放牧する牛や遠くの山々を望むことができる非常に景色の良い自宅でした。農場視察を積極的に受け入れ、ファームステイ等も行っております。

敷地面積は100ha、放牧酪農で250頭をパーラー1基で搾乳し、飼養品種はフリージアン種（見た目はホルスタインでホルスタインに比べ体が小さい）、1頭あたりの平均乳量は24～25kg、分娩



自宅から牧草地を望む風景



大型の哺乳器

は7月15日頃から10週間ほどの間に全て生まれ、哺乳は子牛も放牧していることから、放牧地に大きな哺乳器を置きミルクを飲ませ、体重が100kgになると離乳させます。下痢対策は3～4日ほど哺乳を停止し、薬に頼らず電解質による適切な水分補給を行っております。

親牛の飼料は放牧ということもありライグラス等の牧草がメインですが、搾乳時には濃厚飼料にタピオカとクッキーを20%ずつ混ぜた餌を給与し、乾季には牧草が不足しているカブを与えており、ニュージーランドでは主流とのことでした。

搾乳施設は屋外にあるヘリングボーンパーラーの20頭ダ

ブル1基ですが、ヘリングボーンの呼称については、ヘリング（ニシン）ボーン（骨）ということ、ニシンの骨の形状に類似していることから名づけられており、中規模農場では比較的多く使用しております。

実際の搾乳は見られませんでしたが、汚れがよほどない限り乳頭は拭かず、前搾り、ディッピングの乳頭清拭も行われず、そのままミルクを装着し搾乳します。私達の常識と違うことに非常に驚きましたが、この搾乳方法がこちらでは主流で、清拭を行っていないにもかかわらず乳房炎等の疾病がほとんど起きず、獣医師による診察や治療は年



ヘリングボーンパーラー



に1〜2回程度です。

●11月14日 農場視察②

○WYNN&TRACY B ROWN FARM

ケンブリッジ市郊外のマタマタ地区にて50年前から農場経営を始め、3代にわたり家族経営を続けている農場で、創業当初は肉牛経営を実施、25年前に酪農へ経営転換し300頭の搾乳から始め、その後、同農場の近隣にあった小規模農場3軒を吸収し、現在では700頭の搾乳牛と3人の従業員を雇用する大規模農場です。



施設の説明をする
牧場主のウインさん

350haの敷地に約100haの牧草地とトウモロコシ畑、1haの森と湿地帯を所有しており、丘の中腹に建つ搾乳施設から臨む景色は非常に見応

えがあります。また2010年には環境に配慮した優れた酪農経営ということで、環境保全賞の「ワイカト バランス エンバイロメント」賞を受賞している農場です。

経営形態は放牧酪農で、飼養品種はニュージーランドクロス（キウイクロスとも呼ばれるフリージアン×ジャージー）、1頭あたりの平均乳量約28kg、牧草には多年草であるペレニアルライグラスを80%、クローバーを20%の割合で植生しており、イタリアンライグラスを選ばなかったのは、生育と再生の良さがあり安定した収量が見込める半面、1年草で冬季に伸びが良く夏季には育ちが良くないとの理由から、ペレニアルライ



ロータリーパーラー

グラスを選択しております。

搾乳形態は54頭のロータリーパーラー1基で自動離脱、自動デタッチング、個体は耳に装着しているタグによって体重や乳量等が管理され、8分間で1周し1時間に350頭、約2時間で700頭の搾乳が終わりますが、中には居心地がいいのかパーラーから退出しない牛が居ることがあり、その際は牛の頭部付近にある噴出口から水が出て退出を促します。飼養する牛の種類はニュージーランドクロスのみですが、その理由は個体がい小さいことから乳量が少なく、餌の量及び便の量が少なく乳脂肪が高いのが利点です。また時間効率の良いロータリーパーラーですが、ニュージーランドでは電気代が高く、ひと月あたり日本円に換算すると約35万円の電気代は頭が痛いと言っていました。

この農場では前日視察した農場とは違い乳房炎が多発し、それは湿度の高い冬季に多く発症すると言っていました。

やはり抗生物質等を使用した治療は極力行わず、1か月に2回ほど消毒をする等の対策をしております。

海外視察を終えて

日本とニュージーランドでは様々な面で大きく違う酪農環境でしたが、搾乳戸数の減少と農場の大型化は日本と変わりなく、今回視察をした北島では平均飼養頭数が420頭、南島では500頭と20年前の倍になっており、抱える問題が共通したものや違うもの、その他様々なことを知ることができました。

この視察に参加する機会を与えて下さったことに対し深く感謝申し上げます。



ウインさんの自宅前にて

平成二十九年産 自給飼料の
生育と分析結果より

今回は、今年収穫された自給飼料の作況調査、収量調査結果や粗飼料分析値などから、傾向や使用法について考えてみたいと思います。

1 生育及び収穫作業の経過

● 1 一番草

5月の高温により、1番草の生育は順調に経過し、出穂は平年に比べて出穂始で1日早く、収穫も平年より5日早まりました。

● 2 一番草

7月以降の好天により草丈の伸びは順調でした。

収穫作業は平年並みに始まり、収穫終は2日早まりました。

2 収量(表1)

・1番草の収量は、2、333kgと平年の104%となりました。

・2番草の収量は、1、292kgと平年の102%となりました。

・1番草と2番草の合計収量は103%となり、サイレージ等は平年並に確保されたと考えられます。

・飼料用とうもろこしの生収量は、6、554kgと平年の113%とかなり上回りました。

表1 H29年中西部支所管内の収量調査結果
(市町村、JA、普及センター調査による)

	H29	平年	平年比
1 一番草	2,333kg	2,240k	104%
2 一番草	1,292kg	1,263kg	102%
合 計	3,625kg	3,503kg	103%

	H29	平年	平年比
コーン	6,554kg	5,799kg	113%
TDN収量	1,052kg	1,055kg	100%

※収量はkg/10a

● 飼料用とうもろこし(コーン)

7月以降の好天により、7月中旬から8月上旬までの草丈の伸長は平年を上回り、稈長はやや徒長気味となりました。

8月以降は低温日照不足により登熟はやや遅れ、乳熟期は3日、糊熟期4日、黄熟期9日遅れとなりました。9月18日の台風18号により、倒伏、折損被害が発生しました。このため、登熟は遅れていましたが、倒伏被害対策として収穫作業を開始したため、収穫始は3日早まりました。倒伏被害により収穫作業

に日数を要し、収穫終は2日遅れとなりました。

3 栄養価

12月時点までに揃った中西部支所管内の粗飼料分析値のデータから、今年の傾向を見てみましょう(表2)。

● 1 一番草

TDNは収穫時期が、平年より5日早まりましたが、昨年の平均と比較してほぼ同じです。繊維含量(NDF)は1ポイント低い傾向です。一方、粗タンパク(CP)は、2ポイント高い傾向にあります。

既に給与している農場からは、「発酵品質もよく、食い込みが良いのでサイレージの減りが早い」との声も聞かれます。

● 2 一番草

栄養価は、1番草同様、ほぼ昨年と同じ傾向でしたが、嗜好性など引き続き品質を確認する必要があります。

● 飼料用とうもろこし

TDN、NDFはそれぞれ平成28年対比100%と前年並になり、デンプン含量は3ポイント高い結果となりました。収穫が早まったために高水分

となり、デンプンが排汁と共に流れ出た可能性もあるので、分析結果と牛の反応を確認する必要があります。

倒伏折損被害のため、傷みや土砂混入による品質低下が懸念されます。

表2 平成29年度 粗飼料の分析値平均(H29.12月現在 ホクレン受付分)

		H29産(n=66)	H28産 (n=22)	H29/H28
1 一番草	TDN	61	61	100%
	CP	11	9	118%
	NDF	64	65	98%
2 一番草	TDN	61	62	99%
	CP	14	15	91%
	NDF	61	61	100%

		H29産(n=20)	H28産 (n=17)	H29/H28
コーン	TDN	70	70	100%
	澱粉	24	21	114%
	NDF	47	47	100%

(単位: %)

4 給与について

● 食い込み量の確認

開封時は、カビや変敗等にご注意しサイレージ品質を見ながら牛が十分に食っているかを確認し、カビ毒吸着剤の使用や、栄養成分の不足を補うなど臨機応変に対応しましょう。



准組合員について学ぶ（全4回シリーズ）

J Aグループ北海道は、「道民と食と農でつながるサポーター 550万人づくり」を通じて、J Aグループに共感し、ともに行動して頂ける仲間づくりを進めています。国が進める「准組合員利用規制」の議論に待ったをかけるべく、組合員の皆で声を上げていきましょう。

【最終回】J Aのサポーターとしての准組合員



生徒

J Aグループ北海道が、「サポーター 550万人づくり」を進めているって聞いたけど、どんな取り組みなのかな？僕らもサポーターになれるかな。

北海道で作られた農畜産物を食べることはもちろん、農業・農協・農村を応援したいという思いを持って、J Aグループとともに行動する仲間を「サポーター」と位置づけているよ。平成28年12月にアンケートをしてみたら、北海道の農畜産物を優先的に食べて、農業を応援したいと考える人が、道内には400万人もいる計算で、准組合員数の28万人よりずっと多いんだ。



先生



生徒

道民のほとんどは食べるサポーターなんだ！僕もサポーターとして行動したいけど、J Aは、地域でどんな協同活動に取り組んでいるの？

J Aの広報誌やコミュニティ誌で、組合員の皆さんに紹介されている内容を例に挙げると、特色のある色んな取り組みをしていることがわかるよ。

- 地域協同活動（高齢者見守り、子ども食堂、移住者支援、街並み美化 等）
- 地域インフラ（移動購買車、移動金融車、高齢者支援 等）
- 地域食農教育（農業体験、出前授業、バケツ稲 等）
- 地域連携事業（地域祭り等の催事、行政・漁協・商工会・企業・大学連携 等）
- 情 報 発 信（移住者・交流人口増加に向けた農と地域の魅力発信 等）



先生



生徒

J Aは、地域に根差した色んな協同活動をしているんだね。僕も一緒に参加したいなあ。

J Aは、地域に住む組合員ニーズに応えるのが役割だからね。「正・准組合員アンケート（平成29年11月以降実施予定）」などを使って皆の期待に応えることで、「これからもJ Aは地域に必要なだね」と言ってもらえるよう頑張っていくよ。



先生



生徒

准組合員やJ Aの取り組みがよくわかったよ。僕もJ Aの協同活動に参加しながら、准組合員の利用規制に反対の声を上げて行くな。

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

昨年11月21日に札幌市で開

催した「JA北海

道大会実践フォー

ラム」では、JA

北海道大会（平成

27年開催）の決議

事項の実践機運を

高めること等を目

的に、『新規担い手

倍增』と『道民と

食と農でつながるサ

ポーター550万人

づくりと准組合員制

度をテーマに取り

上げ、JAの実践事例

発表とパネルディ

スカッションにより、『担い手受け入れ

への地域合意形成』と『准組合員との関係強化』の大切さなどを再認識する場となりました。



JAによる事例発表の様子↑



JA北海道信連

昨年11月に「食

と「農」をテーマ

に開催された「北海道アゲ

リ・フードプロジェクト」

に参加しました。



当日は、キャンペーンチラシの配布などでJAバンク北海道や「ドローン貯キャンペーン」等のPRを行ったほか、口座開設を予約された方に「ちよリスブランケット」をプレゼントしました。今後も積極的にイベント等へ参加し、JAバンクのPRを通じて、サポーターづくりに取組んで参ります。



ホクレン

道産牛乳・

乳製品の消費

拡大を目的に酪農家の拠出

金で継続的に実施している

「ミルクランド北海道」事業の一環として、東京都武蔵野市吉祥寺の商業施設「コピス吉祥寺」に期間限定ショップ「MILK LAND HOKKAIDO TOKYO」(平成29年11月15日～平成30年3月25日)を開催し、北海道酪農を広くPRしております。会場では北海道の酪農家が実際に訪れ、来場者と交流するイベントも毎月開催しています。



JA共済連北海道

2月5日から12日まで開催される「第69回さっぽろ雪まつり」

7丁目会場にて、平成29年度JA共済全道小・中学生交通安全ポスターコンクールの入賞作品65点を展示します。

JAとJA共済連北海道は、交通ルールの大切さや交通安全に対する願いが描かれた小・中学生の皆さんの作品を通して、交通事故防止の意識づくりにつなげたいと考えています。



昨年の会場の様子↑



JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様

様の生命と健康を守るため、本

会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを

目的として、広報誌「すまいる」を発行

しております。年3回発行しており、様々

な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲

載しておりますので、是非ご一読くださ

い。





JA北海道厚生連



元氣生活応援キャンペーン

対象商品
1個ご購入ごとに
抽選はがきを進呈

対象商品ご購入で道産品グルメをプレゼント!

毎月30名に
賞品をお届けします

対象商品のご案内

"塗るタイプのグルコサミン"

グルコサミンダイレクト



新発売

▶こんな方にお勧めします

- スムーズに(活発に)動きたい方
- ふしふしの動きが気になる方
- 運動で筋肉を使う方
- デスクワークが多い方

気になるところに1日に2〜3度、5〜10分程度マッサージしながら塗りこむだけ。

〈1瓶85g/約1ヶ月分〉3,800円(税別)

1日のおつかれさまに

草苺譜Ⅲ

高麗人参液

心休まる糖
(ひの香)の香り

2種類の温泉成分に5種類の保湿成分で、温まってしっとりお肌。

〈1瓶42回分〉

2,381円(税別)

おいしく毎日!

ラブレゼリー

植物性
乳酸菌

▶こんな方にお勧めします

- 腸内環境を整えたい方
- 便秘でお悩みの方
- ストレスが多い方

〈10g×30包〉

3,000円(税別)

おいしい抹茶風味

野菜酵素 青汁



▶こんな方にお勧めします

- 食生活が偏りがち
- 生活習慣が不規則
- 便秘気味・毎朝スッキリしない

〈3g×31包〉

2,200円(税別)

商品1個購入ごとに専用はがきを進呈、抽選で毎月30名に賞品をお届けします。

お求め・お問い合わせは、あなたの街のJA配置薬粧薬局にお気軽にご連絡ください。

■対象期間 2017年10月1日〜2018年3月31日

■応募方法 対象商品をお渡しの際に、専用抽選ハガキをお渡しします。

専用ハガキに住所・氏名・希望賞品など必要事項を記入のうえ投函ください。

■抽選方法 期間中、毎月末に到着した応募ハガキを厳正に抽選します。

■賞品の届け 各月毎に賞品を発送します。(賞品の発送をもって当選者の発表にかえさせていただきます。)

■応募締切 2018年4月5日消印有効



JA配置薬



道産品グルメプレゼント

① びらとり和牛極上バラ
すき焼き700g② 上干ししゃも
メス③ 緑茶の臭・タレ付2食
煮込みハンバーグ2食④ 多良の子虎杖浜のまごころ
500g

【ご注意】お客様の住所などが不明で賞品がお届けできない場合は、当選を無効とさせていただきます。賞品の交換・現金・返品はできませんので、あらかじめご了承ください。

商品やキャンペーンに関するお問い合わせは

JA北海道厚生連 医薬事業部配置薬課 フリーコール 0120-99-4193(無料)・受付時間 平日8:30~17:00

理 事 会 報 告

12月定例理事会 平成29年12月22日(金)

報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 11月末財務状況について
4. 事業の実施処理状況について
5. 内部審査の結果について
6. 無通告監査の報告について
7. 大口信用供与等先の経営状況等について

議案第6号 平成29年度森林整備事業の実施について

議案第7号 平成29年度 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業の承認について

議案第8号 固定資産の取得について

議案第9号 株式会社鶴居クリーンエナジー設立及び運営合意書の締結について

議案第10号 株式会社鶴居クリーンエナジーに対する出資、出えんについて

議案第11号 農協法第33条第2項利益相反取引行為の承認について

議案第12号 資産評価に係る基準額の設定について

付議事項

議案第1号 農協検査指摘事項に対する改善・対応状況等の報告について

議案第2号 JA全国監査機構期中監査の結果について

議案第3号 平成29年度(第3四半期)にかかる監事監査の結果について

議案第4号 融資の承認について

議案第5号 営農計画樹立基本方針の設定について

その他協議事項

1. 機構改革について
2. 当面の業務日程について

■平成29年度	生乳生産実績(12月)			
	月計乳量(kg)	12月前年比(%)	累計乳量(kg)	累計前年比(%)
JAくしろ丹頂	8,253,570.0	100.2	74,245,411.9	97.8
鶴居地区	2,953,178.4	101.8	26,660,623.4	102.3
幌呂地区	2,209,730.6	101.0	19,751,768.9	97.6
白糠地区	1,668,311.6	97.3	15,192,352.0	96.7
音別地区	1,422,349.4	99.3	12,640,667.6	91.1
管内計	44,048,345.3	101.5	396,986,468.6	98.5
(前年度管内計)	43,402,342.6		402,950,675.4	

大変お世話になりました。

佐 藤 千 鶴

白糠支所 営農課営農係兼販売課販売係兼家畜改良課家畜改良係
12月31日をもって退職しました。

編集後記
EDITOR'S NOTE

□今シーズン最強と言われる寒波が日本列島を襲っております。全国的に大雪や低温などにより、様々な形でライフラインに支障をきたしていることがニュースとなっており、自然の脅威を感じずにはいられません。釧路管内の寒さもこれからが本番です。釧路で大雪が続くことは少ないとはいえ、低温等に対する備えは万全にし、体調管理及び乳牛等に対しても寒さに弱い子牛の寒冷対策等も徹底し、厳しい冬を乗り越えて参りましょう。